

■ USPATALL ファイルクラスターにおける経済的な出力方法

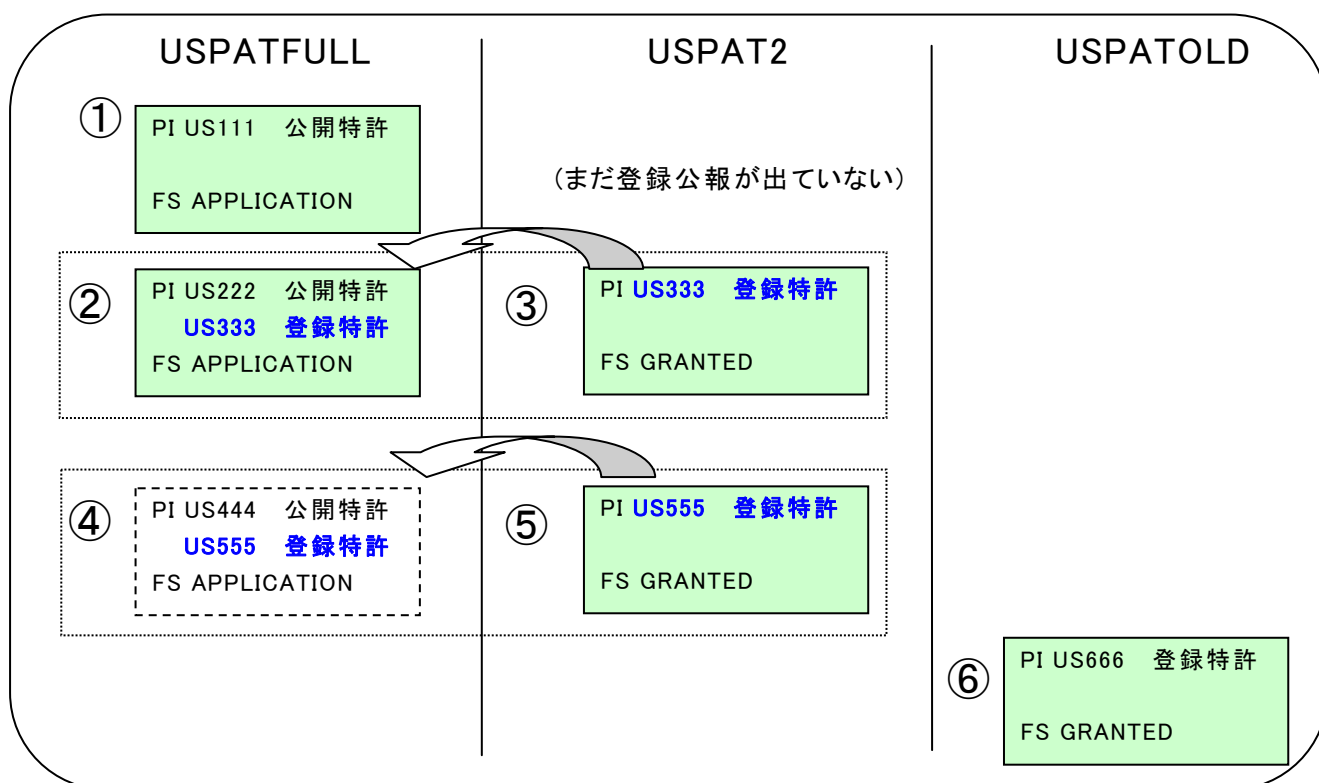
USPATALL ファイルクラスター (または USPATFULL と USPAT2 ファイルのマルチファイル) を検索すると、同一発明の特許が USPATFULL および USPAT2 ファイルの両方でヒットする場合があります。

- ・ (背景が緑のレコード) がヒットしているレコード
①, ②, ③, ⑤, ⑥ がヒットしている。

(1) ② と ③ が同一発明 (同一出願情報をもつ特許) でヒットしている。

(2) ⑤ は USPAT2 ファイルのみでヒットし、USPATFULL ファイルではヒットしなかった。
(ヒットしなかった USPATFULL ファイルのレコードが ④)

(3) USPATOLD ファイルと USPATFULL/USPAT2 ファイルでは収録対象特許に重複がない。



USPATALL ファイルクラスターの重複除去方法

ポイント : **拡張表示形式を利用して重複除去を行う**

拡張表示形式を利用すると、同一発明 (同一出願情報をもつ特許) が USPATFULL, USPAT2 ファイルの両ファイルに収録されている場合、1 ファイルの表示料金の 2 ファイル分の情報を表示することができる。

1. USPAT2 ファイルで得られた回答 (③, ⑤) を SELECT AN または TRANSFER AN を利用して USPATFULL ファイルにまとめる。
(②, ④ (④ は検索ではヒットしていなかったレコード) がヒットする。)
2. USPATFULL ファイルの回答を拡張表示形式 (.EX 付き) で出力する。
(①, ② ③, ④ ⑤ が出力される。表示料金は ①, ②, ④ に対してのみ課金される。)
3. USPATOLD ファイルの回答を出力する。
(⑥ が出力される。)

■ 検索例

=> FILE USPATALL

← USPATALL ファイルクラスターに入る

=> SET MSTEPS ON
SET COMMAND COMPLETED

← 各ファイルの回答セットに L 番号を付与するため、
SET MSTEPS コマンド を利用する

=> S 質問式

← 検索を実行する

L1 476 FILE USPATFULL
L2 4 FILE USPATOLD
L3 101 FILE USPAT2

TOTAL FOR ALL FILES
L4 581

=> SEL L3 AN
E1 THROUGH E101 ASSIGNED

← USPAT2 ファイルの回答 L3 からレコード番号 (AN) を
抽出する (SEL AN は無料) (3 ページの注意を参照)

=> S E1-E101

L5 101 FILE USPATFULL
L6 0 FILE USPATOLD
L7 101 FILE USPAT2

同一出願番号をもつ特許では USPATFULL, USPAT2
ファイルのレコード番号は共通である。
そのため、USPAT2 ファイルで抽出したレコード番号を
検索すると、対応する USPATFULL ファイルのレコード
もヒットする。

TOTAL FOR ALL FILES

L8 202 ("2001:212130"/AN OR "2002:272466"/AN OR "2002:343539"/AN OR "20
03:127746"/AN OR "2003:180301"/AN OR "2003:219669"/AN OR
:

=> S L4 OR L8

← L4 と L8 を合わせる
← L1 に比べて 1 件多くなっている

L9 477 FILE USPATFULL
L10 4 FILE USPATOLD
L11 101 FILE USPAT2

USPATFULL ファイルの回答である L9 と L1 を
比較する。
件数が、L9>L1 の場合は、USPATFULL ファイルの
L1 に含まれない特許が L3 の回答に存在していた。
この L1 で得られなかった特許が SEL AN, そして
レコード番号 (AN) 検索を実行することにより L9 に
含まれた。

TOTAL FOR ALL FILES

L12 582 L4 OR L8

回答の表示方法 : (1) か (2) のどちらかを使用する。

拡張表示形式は BIB.EX, CLM.EX, FP.EX, MAX.EX, STD.EX の何れかを選択する。

(1)

=> D L9 1- BIB.EX

← USPATFULL ファイルの回答を拡張表示形式で表示する

=> D L10 1- BIB

← USPATOLD ファイルの回答を表示する

または

(2)

=> D L12 1- BIB.EX FROM USPATFULL

← USPATFULL ファイルの回答を拡張表示形式で表示する

=> D L12 1- BIB FROM USPATOLD

← USPATOLD ファイルの回答を表示する

■ 注意

- ・ 1 回で SELECT できる回答数は 5 万件であり, ターム数は 999 タームである.
そのため, L3 のターム数が 999 件を超える場合には, TRANSFER コマンドを利用すると便利である.

例)

=> S 質問式

L1 4465 FILE USPATFULL
L2 0 FILE USPATOLD
L3 1123 FILE USPAT2

TOTAL FOR ALL FILES

L4 5588

=> TRA L3 AN

← *TRA L3 AN* を実行すると, 自動的に L9 までが検索される
(TRANSFER コマンド 2,300 円)

L5 TRANSFER L3 1- AN : 1123 TERMS
L6 1123 FILE USPATFULL
L7 0 FILE USPATOLD
L8 1123 FILE USPAT2

TOTAL FOR ALL FILES

L9 2246 L5

=> S L4 OR L9